

令和3年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”を基礎として、“人間形成の土台づくり”を進めるため、園児たちの遊びや生活を通した教育活動を行う。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力を育てる・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭を育てる・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方ができる・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・建学の理念をもとにした教育を推進するため、以下の五点に重点を置き、教育内容の充実、改善に努める。
 - (1) 建学の理念、教育要領が生きた生活や遊びを展開する。
 - (2) 小学校につながる力、人間形成の土台づくりとしての幼児教育を実践する。
 - (3) 豊かな学びと体験を生む環境を整え、考える力やコミュニケーション力を養い、仲間関係を豊かにする保育を実践する。
 - (4) キンダーカウンセラーとの連携を図り、支援を要する園児への取り組みを継続し、保護者の相談等への対応を充実する。
 - (5) 保護者との連携を通して、園児と保護者の満足度を向上させる。
- ・教員の資質向上を目指し、外部研修への積極的参加及び園内研修の強化に努めるとともに、教員自らが、指導計画の充実及び領域研究に主体的に取り組みながら、自己啓発を進める。
- ・保護者との連携、協力を深めることにより教育効果を高め、園児が基本的生活習慣（生活リズムの確立、TPOの感覚、内省する習慣、我慢する気持ち、踏んばる力）を身につけることで、園児が育つ幼稚園を目指す。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じたうえで、高校生や大人と園児の交流を深め、園児の生活の幅を広げ、園児の一層の成長につなげるため、地域や系列校との連携に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	幼稚園教育要領を建学の理念及び教育方針とすり合わせ、幼稚園教育要領の実施に関する具体的方法として「写真で見る教育課程編成」を実践した。また、教員による日々の振り返りを行い、ICTも取り入れ、教育に関する情報の共有に努めた。 幼稚園教育要領と建学の理念等との接点を意識し、より良い教育課程の編成に向け、継続して取り組んでいく。
建学の理念、幼稚園教育要領、教育課程、園児の実態等を基に指導計画を作成する。	園児たちの実態を踏まえ、学びや育ちを保証できるように各学年の担当教員が意見交換を行いながら、建学の理念及び幼稚園教育要領を踏まえた指導計画の作成に努めた。

	また、ＩＣＴを活用した教育に関して検討を行い、園児の視覚に訴える教育の充実を図った。 文字ではなく、視覚に訴えることは、各教員の資質向上につながるため、引き続き「写真で見る教育課程」「ＩＣＴを活用した教育」を取り入れ、教育課程の再編成と指導計画の充実を図る。
教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させ、研究会等へも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上に努める。	オンラインでの研修も含め外部研修等へ積極的に参加し、研修で学んだ内容を園内研修で積極的に報告するなど、日々の保育の参考となる情報共有を推進した。 教職員間で園内研修や情報交換を積極的に実施し、特に、支援を要する園児についての情報は全教職員間で共有し、園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育に取り組んだ。
園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながら、保護者との懇談、保育参観及び子育てサロンなどを開催し、園児の学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用した。 個人情報の管理に配慮しながら、公式WEBサイトやInstagramを利用し、積極的に園児の園生活や行事の様子などの情報発信に努めた。また、公式WEBサイトのリニューアルに向けた検討を進めた。 「れんらくアプリ」を活用し、保護者への連絡を迅速且つ効率的に行うとともに、同システムにより通園バスの位置をリアルタイムで発信し、通園バス利用者のバス停での待ち時間の短縮を図った。
安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）を進める。	園内、園庭の環境整備のため、随時、遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。 園舎内外の補修・改善も行った。 安全な園児のバス送迎を図るため、通園バスに設置したドライブレコーダーの記録をもとに、教職員で意見交換を行い、バス運行の安全性の向上を図った。
地域・系列校との連携を進める。	地域との連携を図るための諸行事のうち敬老会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止とした。 系列校との連携では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じて、大阪商業大学高等学校の生徒による園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を実施し、園児と生徒の交流を行った。また、大阪緑涼高等学校へ園児が出かけ、保育系進学コースの生徒との交流を行った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・本園独自で策定した新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策マニュアルや国等のガイドラインなどに沿って対応し、園内での感染を発生させずに教育を実施できた。 ・生き物の飼育、野菜の栽培など、さまざまな日々の園生活における体験や遊びを通して、建
--

学の理念を意識した質の高い教育を展開することにより、園児の学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を育てた。

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、教育や行事の内容を変更するところもあったが、園児の主体性を育むため園児を中心に置いた教育を実践できるように工夫し、園児自らが行動して達成感を味わえる教育を行った。また、距離を保ちながら「ヒト」との関わりを意識し、コミュニケーション力や仲間意識の涵養を図るため、年齢に応じて園児が自らの考えや思いを伝える話し合いの時間を大切にした。
- ・幼稚園教育要領及び幼稚園の教育方針を意識し、教員間の情報共有にも努め、園児一人一人を見つめる教育を実践した。
- ・火災、地震、不審者の侵入を想定した三種の避難訓練を行い、「自分の命は自分で守る」ことができるように指導し、日々の生活における危険を回避する力を育んだ。
- ・文庫を活用して、園児が多くの絵本に出会う機会を創出し、物語に入り込む集中力やイメージを広げる想像力を養うとともに、豊かなこころの育成に努めた。
- ・オンライン形式の研修も含め、外部の研修会等へ積極的に参加し、内容を園内研修で報告することで、教員の情報共有と資質向上に努めた。
- ・公式WEBサイトやInstagramを活用した情報発信にも取り組み、保護者及び一般の方へ教育内容の周知を図った。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者との効果的な連携の推進	保護者が期待する幼稚園像を保護者懇談会や保育参観及び担任等を通じて把握し、求められる幼稚園の姿を確認したうえで、カリキュラムの見直しも検討し、建学の理念に基づく教育を展開する。 公式WEBサイトやInstagramを用いてタイムリーに情報発信を行い、保護者との連携強化を図る。 定期的な参観により日常の保育の様子を保護者に公開する機会を継続して設けるとともに、父親など男性が参加できる行事についても定着を図る。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮した保護者との連携のあり方を検討する。
教育力向上へ向けた取り組み	園内研修の強化と研修会（学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学課、大私幼プロジェクト、ちゃいるどネット他）へ積極的に参加することで、教員一人一人の教育力向上につなげていく。 各教員が自己研鑽に取り組めるよう、働き方改革も踏まえながら、在園時間の使い方の見直し等を継続して検討する。 各教員の自己点検の結果を全教員にフィードバックし、個人の問題点を幼稚園としての問題点として共有し、今後の教育に活かしていく。 教職員間の意見交換を活発に行い、情報共有を進め、日々の保育を振り返りながら教育内容の改善につなげていく。
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	安全管理マニュアルを状況に即して更新する。 学期毎に避難訓練を実施して、震災やゲリラ豪雨等の自然災

	害を含む大規模災害に備え、全教職員が園内の避難経路及び各自の役割分担を確認し、自覚を持って行動できるようにする。 引き続き、布施警察署と連携した防犯訓練の実施及び防犯意識の向上を図るとともに、消防署との連携による防災訓練等を検討する。 法人本部危機管理担当及び大学警備員とも継続して連携しながら、園児が安心して園生活を送れるよう、幼稚園周辺の定期的な巡回、危険個所の把握及び教職員間の情報共有を行う。 また、門扉の電気錠化と防犯カメラの増設について検討する。
特別支援教育の充実	支援を要する園児へのアプローチについては、専門家の意見や助言等を取り入れて実践に結びつける必要があるため、引き続き、キンダーカウンセラーと教職員との意見交換や研修を充実させる。 引き続き、積極的に外部研修会に参加し、研修内容を園内研修で報告することで情報共有を図る。 保護者と連携して園児一人一人に最適な支援が行えるよう、個人カリキュラムを作成して対応するとともに、保護者に対して園児への「気づき」を促す取り組みを継続して実施する。 園児の発達や遊びの様子を把握し、キンダーカウンセラーと連携しながら、園児と保護者へ適切な対応ができる体制を整える。また、公的機関とも連携しながら、支援を要する園児の成長を促していく。
地域・系列校との連携	創立から続く地域とのつながりを大切にし、さらなる相互理解を深めるため、地域にも諸行事などを通して積極的に働きかけ、幼稚園の活動、行事等への理解が得られるように努める。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に留意し、大阪商業大学の施設利用、大阪商業大学高等学校デザイン美術コースとの連携による木製パズル制作及び大阪緑涼高等学校保育系進学コースとの連携を図る。
子ども・子育て支援新制度への対応	「認定こども園」への移行については、研修会への参加及び東大阪市並びに近隣幼稚園への聞き取り等を行い、情報収集を進める。

6. 学校関係者よりの意見

➤ 心情・意欲・態度を育てる教育 ✓ 教員が決めるのではなく、子ども達での話し合いで決めることが多く、子どもの発言機会を多く設けている。 ✓ 異年齢児とのかかわりが多く、上級生が下級生の世話をする心情や習慣が身に付き、子どもへの刺激が多い。 ✓ 子どもを厳しく叱りすぎず、子どもを見守り、子どもの気持ちを大切にしている。 ✓ 子ども同士の関わりに過度に干渉せず、子ども同士で解決する力を養ってくれる。 ➤ 充実した施設や環境 ✓ さまざまな動植物に触れることができる。

- ✓ 野菜の栽培、緑豊かな自然に触れるところが多い。
- ✓ 子ども達が安心して園生活を送れるよう、さまざまな工夫がなされている。
- 新型コロナウイルス感染症への取り組み
 - ✓ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が充実している。
 - ✓ コロナ禍の中でも子どもが楽しい園生活を送れるよう、さまざまな工夫や取り組みがなされている。
 - ✓ 園外での遠足や保育の場面においても的確な感染対策が行われている。
- 子どもや保護者への関わり
 - ✓ 教職員が一つのチームとなり、子どもに関わっている
 - ✓ 教職員が子どもの名前と顔を覚えており、安心できる。
 - ✓ 子ども一人一人の成長を認めて受け止め、温かく見守り、成長を保護者とともに共有してくれる。
 - ✓ 教職員と子どもの距離が近く、教職員が子どもの様子をよく見ている。
 - ✓ 経験豊かな教員が多く、悩みなどの相談もしやすく、安心して子どもを預けることができる。
 - ✓ 子どもの変化を教職員が共有し、小さなことでも保護者への報告があるので安心できる。
 - ✓ 子どもや保護者の意見をしっかり聞いてくれる。
 - ✓ 子どもの気持ちに寄り添い、子どもの自立を促す指導が多い。
- さまざまな体験を通して育つ教育
 - ✓ 子ども達が、五感を通してさまざまな体験をしている。
 - ✓ 年齢に応じたさまざまな遊びや多くの体験があり、子ども達もマンネリ化せずに楽しんでいる。
 - ✓ 運動会や劇あそびなど、子どもにとって無理のない内容で指導し、子どもらしい姿が見られる。
 - ✓ 避難訓練でも子どもの体験を重視し、コロナ禍ではあるが、さまざまな場面を想定しながら、工夫して実施している。
- 検討すべき意見
 - ✓ 園庭での見守りの教員が少ないような気がする。
 - ✓ 預かり保育の申込締切りに柔軟性があればよい。
 - ✓ SNSを使用した情報発信は充実してきているが、情報の更新頻度を高めればさらに良くなる。
 - ✓ コロナ禍ではあるが、行事や園外での保育などの減少が気になる。年長の一泊保育は実施を検討すべきである。
 - ✓ コロナ禍での感染防止対策の必要性は分かるが、諸行事への保護者の参加人数の制限緩和を検討すべきである。
 - ✓ 写真撮影時、マスクを外す場面を増やして欲しい。
 - ✓ 教員のピアノ演奏の資質向上が望まれる。
 - ✓ 経験豊かな教員もいるが、若い教員の育成にも取り組んで欲しい。
 - ✓ 園の行事と姉妹の小学校の行事とが重なる場面があるので、小学校との連携を図るべきである。
 - ✓ 雨天送迎時の駐輪場所と方法を検討すべきである。
 - ✓ クリスマス会や行事等でのプレゼントの充実を検討すべきである。

- ✓ 保護者に対して、送迎時における交通マナーの遵守を働きかけるべきである。
- ✓ 防犯・安全対策について、現状でも充分であると考えているが、現状に甘んじることなく、常に見直しや充実を検討して欲しい。

以上の関係者評価を真摯に受け止め、慣れ合いになることなく、より良い保育・教育を目指して各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。